

日本歯科保健医療国際協力学会
(JAICOH)

第34回総会・学術集会

抄録集
(学会当日版)

- ・会 期：2024年7月5-7日
- ・場 所：幕張国際研修センター
- ・大会長：阿部智（千葉大学薬学部 非常勤講師）
- ・主 催：日本歯科保健医療国際協力学会
- ・後 援：千葉市、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会

目次

1. 概要	1
2. 大会長挨拶	2
3. タイムテーブル	3
4. 抄録集	4
① 基調講演	「保健医療分野のナッジ・行動経済学」.....	5
② シンポジウム 1	「我が国の歯学部・歯科大学における国際交流」.....	6
③ シンポジウム 2	「円安時代における学生の海外活動」.....	10
④ シンポジウム 3	「千葉から世界へ。歯科界のグローバル化の光と影。」.....	13
⑤ シンポジウム 4	「卒業それぞれの道：歯科の国際保健のキャリアパス」.....	15
⑥ JICA 協力隊企画	「JICA 海外協力隊における歯科保健の位置付け」.....	18
⑦ 一般口演	19
5. 市民啓発活動	22
6. 開会式、閉会式、懇親会	22

1. 概要

- ・会 期：2024 年 7 月 5-7 日
- ・場 所：幕張国際研修センター（〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野 1-1）
- ・大会長：阿部智（千葉大学薬学部 非常勤講師）
- ・テーマ：
- ・主 催：日本歯科保健医療国際協力学会
- ・後 援：千葉市、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会

2. 大会長挨拶

日本歯科保健医療国際協力学会(JAICOH)

第34回総会・学術集会

大会長 阿部 智

この度、日本歯科保健医療国際協力学会(JAICOH)第34回総会・学術集会を開催させていただくことになりました。このような機会を頂き、千葉市を会場として皆様をお迎えできることを大変光栄に感じますとともに、本学会会長夏目長門先生をはじめ、ご参会くださいます皆様へ心から御礼と歓迎のご挨拶を申し上げます。

2021年の第74回WHO総会で採択された口腔保健に関する決議では、2030年に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UCH)と非感染性疾患(NCDS)の課題の一環として口腔衛生への取り組みを強化する方向性が確認されました。これは諸先生方のこれまでの活動のご実績に合致したものであり、本学会での議論や交流が今後の口腔保健に大きく貢献できると信じています。

今回の総会・学術集会では、千葉市への開催誘致を促進することを目的した「千葉市グリーンMICE開催支援補助金」のご支援をいただきました。本補助金は従来のMICE開催に係る経費に加え、地域への波及効果を生む取組み、脱炭素施策・廃棄物対策も助成対象としています。準備にあたって、社会における学会の意義が従来の学術の分野以外にも幅広く求められていることを認識したところです。皆様のご参加で千葉市がより発展していくことを嬉しく思います。

最後に、本大会の開催に際し、多くの皆様方にご支援ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げ、第34回総会・学術集会の成功と日本歯科保健医療国際協力学会の発展を切に願ひまして開催のご挨拶とさせていただきます。

3. タイムテーブル

時間	内容	場所	備考
2024年7月5日（金）			
10:00 - 11:00	市民啓発イベント	アストロベースキャンプ	
16:00 - 16:20	表敬訪問	千葉市役所	市長表敬
16:30 - 17:30	役員会	千葉中央コミュニティセンター	オンライン併用
17:30 - 18:00	打合せ会	千葉中央コミュニティセンター	オンライン併用
2024年7月6日（土）			
9:45 - 10:00	開会式	幕張国際研修センター	
10:00 - 11:45	シンポジウム 1		歯学部国際対応
11:45 - 13:00	休憩		
13:00 - 14:00	シンポジウム 2		学生発表
14:00 - 14:15	コーヒースタイル		
14:15 - 15:00	教育公演		JICA 企画
15:00 - 15:15	コーヒースタイル		
15:15 - 16:15	シンポジウム 3		千葉大会企画
16:15 - 16:30	コーヒースタイル		
16:30 - 17:30	基調講演		
17:45 - 19:30	懇親会	幕張国際研修センター	
20:00 -	学生合宿		
2024年7月7日（日）			
9:00 - 10:30	シンポジウム 4	幕張国際研修センター	キャリアパス
10:30 - 10:45	コーヒースタイル		
10:45 - 11:30	一般口演		
11:30 - 12:00	閉会式		

4. 抄録集

① 基調講演

「保健医療分野のナッジ・行動経済学」

福田 吉治

帝京大学大学院公衆衛生学研究科・学科長

1. ナッジと行動経済学とは

ナッジは「人々を強制することなく、望ましい行動に誘導するようなシグナルまたは仕組み」と定義される。関連して、“知らず知らず”、“そっと後押し”、あるいは“行動インサイト”などの用語も使用される。ナッジの基本となる学問である行動経済学は、人の行動や意思決定が必ずしも合理的ではないことに着目している。2017年に、行動経済学者であるリチャードセイラー氏がノーベル経済学賞を受賞して以降、行動経済学とナッジは大きく注目されている。

2. ナッジと行動経済学の基本理論

行動経済学の創始者とされるダニエル・カーネマン氏は、プロスペクティブ理論、ヒューリスティックやバイアスという考え方を提唱した。その後、デフォルトオプション、損失回避、アンカリング、フレーミング、インセンティブ、コミットメント、異時点間選択など、人の行動を説明する多くの理論が提唱された。

数多くある行動経済学やナッジは、『MINDSPACE』や『EAST』などの枠組みによって整理されている。MINDSPACEは、Messengers (メッセンジャー)、Incentives (インセンティブ)、Norms (規範)、Defaults (デフォルト)、Salience (顕著性)、Priming (潜在意識)、Affect (情動)、Commitments (約束)、Ego (利己) の、EASTは、Easy (簡単)、Attractive (魅力的)、Social (社会的)、Timely (タイムリー) の頭文字をとったもので、いずれも、ナッジの基本的で重要な考え方をまとめたものである。

3. 保健医療分野での応用

行動経済学とナッジは、さまざまな分野で応用されている。その代表が、保健医療分野である。生活習慣病等の予防において求められる行動変容や健康的な動の促進にあたり、ナッジや行動経済学の応用が期待されている。具体的には、がん検診や特定健康診査等の受診勧奨、重症化予防のための保健指導の医療機関受療の勧奨、運動・身体活動や適切な食事行動の推進、禁煙などである。さらに、適正受診・服薬、後発医薬品普及などの受療行動等に対しても効果的かもしれない。また、コロナ禍においては、新しい生活習慣の定着のためにも行動経済学とナッジが応用された。

4. 国際歯科保健分野では？

国際保健の領域でもナッジと行動経済学が注目されており、国際歯科保健での応用が可能である。その際、まず、だれのどのような行動を問題とするかを明確にすることが重要である。その上で、ナッジと行動経済学の基礎理論を学び、どのように応用できるかを検討し、実践し、評価していくこととなる。その際、前述したMINDSPACEやEASTの枠組みを用いること、あるいは、関係者とブレインストーミングしてアイデアを出し合うことが実効性を高めるだろう。

略歴

熊本大学医学部卒業(1991年)、熊本大学大学院修了(1998年)、東京医科歯科大学、国立保健医療科学院、山口大学医学部を経て、2015年より帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授。2018年より研究科長。

活動歴等

専門は、公衆衛生全般、保健政策、ヘルスプロモーション。最近の著書『ナッジを応用した保健事業実践 BOOK』(社会保険出版社)、『国保のデータヘルス計画策定・推進ガイド』(社会保険出版社)

② シンポジウム 1

日 時：2024 年 7 月 6 日（土）10:00 - 11:45

主 催：日本歯科保健医療国際協力学会歯科医学系国際協力教育促進協議会部門

テーマ：「我が国の歯学部・歯科大学における国際交流」

座 長：新崎 章（琉球大学医学部顎顔面口腔機能再建学講座・前教授）

演 者：有川 量崇（日本大学松戸歯学部衛生学講座・教授）

西條 英人（東京大学大学口腔顎顔面外科学・准教授）

大橋 祐生（岩手医科大学歯学部口腔外科学分野・准教授）

黄地 健仁（東京歯科大学生理学講座・講師）

趣旨説明

新崎 章

琉球大学医学部顎顔面口腔機能再建学講座・前教授

かつては、日本への留学を希望する多くの外国人がいましたが、世界のグローバル化の中で日本の国力の低下、更には歯科医学分野では国家試験合格率の長期低迷等により、国際協力を行う上でその余力がなくなってきました。さらに COVID-19 のパンデミックにより国際交流が遮断された状況が続いておりましたが、昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症分類が 5 類感染症に移行され、それに伴い徐々に国際交流が再開されるようになり、留学生の受け入れも可能となってきました。しかし、日本の歯科系大学において国際協力に関する教育は十分にはなされていないのが現状であります。

本シンポジウムでは歯科医学分野における国際交流や留学生の受け入れ、更には日本人学生への国際協力に関する教育等において特記すべき活動をしている大学の代表者にお話をして頂くとともに、日本歯科保健医療国際協力学会が中心となり、全国の歯科大学で我が国の歯科医学について海外情報を発信するとともに日本人の学生への国際協力に関する教育を促進するための企画を立案することを目的として開催します。留学生の受け入れのみならず日本人の学生へ歯科分野での国際協力等についての教育についても活発な討議が期待されます。

【略歴】

1983 年 九州大学歯学部 卒業

1985 年 琉球大学医学部 助教

1996 年 琉球大学医学部 講師

2004 年 琉球大学医学部 准教授

2013 年 琉球大学医学部 教授

【活動歴】

2001 年から琉球大学医学部歯科口腔外科のラオスでの口唇口蓋裂患者に対する無償手術活動（2001～2018 年）に准教授および教授として参画。

2012～2017 年の JICA 草の根パートナー型支援事業“ラオスチャーガンじゅう一学校・地域歯科保健プロジェクト”にプロジェクトリーダーとして参画



日本大学松戸歯学部における国際保健部の歴史
History of Club for Research for Global Health
in Nihon University School of Dentistry at Matsudo

有川 量崇
日本大学松戸歯学部衛生学講座・教授

日本大学松戸歯学部3年の時、カンボジアのJAICOH学生スタディーツアーに参加した。これは、その当時の衛生学講座の森本基教授、那須郁夫助教から、こんなツアーがあるから興味があるならば説明会に行ってきたなさいと、渡された1枚のスタディーツアー募集ハガキがきっかけだった。歯科医学教育のコア・カリキュラムにも歯科医師国家試験出題基準にも国際保健という項目があるが、当時の私にとっては、そのようなものは関係なく、肌で感じたかった。そこで初めて“公衆衛生学”という学問を、自分の目で確認できた。また宮田隆先生をはじめとして多くの師匠と出会えた。それが今の私がある大きなきっかけである。

その後、卒業し、大学助手になったばかりの時に、熱い学生達からアジアにボランティアに行きたいという強い要望があった。その際、JAICOHの先生方（宮田隆先生、河村康二先生、深井稔博先生）に相談し、5名の学生達はカンボジアやトンガに行き、それなりに成長して帰ってきた。2000年に阿部智先生からのアドバイスもあり、そのメンバー中心に日本大学松戸歯学部国際保健部（部長：小林清吾教授）をつくり、あれから24年が過ぎた。コロナ禍の前までは、毎年のように学生が、カンボジアやトンガでのボランティアに参加し、それなりに成長し帰国した。APDSAにも多くの学生が参加し、多国間交流をしてきた。卒業生も150名以上を超え、その多くが、地域社会で活躍をしている。部活自体もコロナ禍で少し休んでいたが、また動いてきているようである。本シンポジウムを通じて、学生時代における国際保健教育に何が必要となるのか、その展望とともに議論する場としたい。

略歴

1997年 日本大学松戸歯学部卒業
2001年 コロンビア大学公衆衛生学部客員研究員
2005年 日本大学松戸歯学部講師（専任扱）
2014年 日本大学松戸歯学部准教授
2018年 日本大学松戸歯学部衛生学教授

活動歴等

JAICOH 副理事長
日本口腔衛生学会理事（学術委員会委員長）
日本歯科医療管理学会理事（広報担当）



東京大学医学部口腔顎顔面外科講座での国際交流の活動実績と今後の展開

西條 英人

東京大学医学部 口腔顎顔面外科学講座・准教授

東京大学医学部附属病院では、従来から口唇口蓋裂治療を行っていたが、2016年11月より口唇口蓋裂センターが設立され、口唇口蓋裂治療における集学的治療をさらに強化させている。演者は20年以上にわたり口唇口蓋裂治療に従事しており、その経験を生かして2013年より国際交流のミッションに参加している。10年を経過した現在、今日までの活動を振り返ると、他大学の医師との交流が盛んになり、当施設にも多くの先生が手術の見学に参加する契機になる事もあった。また、ミッションに参加していた学生ともこのミッションを通じて交流も深まり、将来、われわれの講座に研修医として入局する契機にもなっている。また、このように、国際交流事業は、海外の患者さんを医療により福音をもたらすばかりでなく、国際交流を通じて、国内交流も盛んになっている。新しい技術や今まで知りえなかった知見を身近で習得することが可能な場であり、口唇口蓋裂治療に対してより興味を得られる場であると感じている。このようなミッションでもあるため、当施設からも多くの参加希望者がいるものの、やはり費用の問題等で、必ずしも全ての先生の要望を受け入れるには至っておらず、参加される人選を強いられている事もある。今後の展望としては、口唇口蓋裂治療に従事しているコアメンバーと、将来、口唇口蓋裂治療を目標としている若手医師らをシステムティックに人選し、費用の面を含め、コンスタントに参加出来るシステム作りが必要と考えている。

略歴

1997年 神奈川歯科大学歯学部 卒業
1997年 東京大学医学部附属病院分院
歯科口腔外科 研修医
2003年 東京大学医学部附属病院 助手
2006年 東京大学医学部附属病院 特任講師(病院)
2010年 東京大学大学院口腔外科学講座 講師
2016年 東京大学医学部附属病院
口唇口蓋裂センター 副センター長(併任)
2017年 東京大学大学院口腔顎顔面外科学分野 准教授
2018年 東京大学医学部附属病院
口唇口蓋裂センター センター長
2018年 宮崎大学医学部顎顔面口腔外科学
臨床教授(併任)
2021年 東京大学医学部附属病院
周術期管理センター 副センター長(併任)
2023年 神奈川歯科大学 客員教授(併任)

活動歴等

2013年 第72回ベトナム・ベンチュエ省医療援助
2014年 第73回ベトナム・ベンチュエ省医療援助
2018年 第77回ベトナム・ベンチュエ省医療援助
2020年 チュニジア医療派遣隊による医療援助
2020年 第78回ベトナム・ベンチュエ省医療援助
2023年 第82回ベトナム・ベンチュエ省医療援助



演題名：岩手医科大学歯学部における国際交流について

大橋 祐生

岩手医科大学歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野・准教授

2011年12月、岩手医科大学とHarvard大学との共同で、岩手医科大学歯学部改革プロジェクトを締結した。これによって岩手医科大学歯学部における新しい教育・診療・研究システムを構築された。具体的には、従来型の科目別の講義や実習ではなく、実際の臨床の流れに沿って、診断、高頻度歯科治療、最終補綴について学んだ後に、全身管理、口腔外科学、成長発達歯科医学、障害者歯科学、先進歯科学の順に系統的なカリキュラムとなった。また、学生少人数から構成されるSociety systemを採用し、学年に応じて若手の指導教員(Tutor)を各Societyに2人配置し指導にあたるようになった。臨床実習にすすむと各学生が診療科ごとにミニマムケースを修了させていくのと並行して各Societyで包括的な歯科治療が必要なケースを担当し、臨床実習の期間を通じて学生自ら診査診断、治療計画の立案、最終補綴まで指導教員とともに実際の治療をすすめていく。臨床実習の締めくくりとして、各Societyで担当したケースについてプレゼンテーションを行い、学生通しでディスカッションを行う。この教育システムはHarvard大学歯学部とほぼ同様であり、この流れの中で各学年に応じた国際交流が行われている。岩手医科大学歯学部の学生がHarvard大学やHarvard大学の関連病院での外来見学、手術見学を行い、プレゼンテーションを行っている。また、Harvard大学歯学部の学生も岩手医科大学歯学部を訪れて同様の国際交流を行っている。2013年から歯学部学生の国際交流が開始されこれまで延べ41名の学生が参加した。2020年から2023年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていたが、2023年から再開されている。

本シンポジウムでは、当大学とHarvard大学における国際交流の取り組みを中心に紹介し、今後の発展につながる意見交換ができればと考えている。

略歴

2005年 岩手医科大学歯学部歯学科 卒業
2011年 岩手医科大学大学院歯学研究科 修了
2012年 岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学
講座口腔外科学分野 助教
2018年 同分野 講師
岩手医科大学附属病院頭頸部
腫瘍センター センター員(現在)
2022年 同分野 特任准教授(現在)

活動歴等

2014年 Harvard大学教育研修会 参加
2016年 日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂
診療隊派遣事業 参加
2017年 日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂
診療隊派遣事業 参加
2018年 日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂
診療隊派遣事業 参加
2019年 Bern大学頭蓋顎顔面
外科 訪問
2024年 日本口唇口蓋裂協会
ベトナム口唇口蓋裂
診療隊派遣事業 参加



東京歯科大学での国際交流活動と今後の展望

黄地 健仁

東京歯科大学 生理学講座・講師

東京歯科大学は、国際感覚を養うこと、また人類のための普遍的な歯科医療に貢献できる人材養成を目的に、春季休暇を利用して第1学年から第5学年までの選抜者がアメリカ、ドイツ、スウェーデン、台湾の姉妹校で、大学・病院見学・学生交流等の研修を行う Elective Study Program を実施している。また2023年度からは、臨床実習を経験した第5学年が韓国の姉妹校で病院見学を行う海外研修プログラムをスタートさせ、一人でも多くの学生の海外派遣を促進している。

また、歯学・口腔科学を学習する中で、国内外において歯科医療に係わる実社会に貢献する活動を行うことを目的として設立された東京歯科大学公認団体である国際医療研究会が存在する。国際医療に関心を持ち、歯科分野から貢献できる「国際歯科医療人」を目指し、国際医療の知識を深めることのできる研究会を目指している。主な活動内容は、これまでに国際保健活動、国際交流活動、国内ボランティア活動（高齢者施設などで）を中心としてきた。また、国際交流活動として東アジア・東南アジア・オセアニア地域の歯科学士の交流を目的とした国際交流団体であるアジア太平洋歯科学士会議（APDSA）への参加、歯科学士における日中中学生交流の友好や相互理解を深め、日中の歯科保健医療を通じた社会貢献や将来を通じた両国間の連携強化や交流を推進していくことを目的として「日中歯科学士交流事業」に参加してきた。国際保健活動としては海外スタディーツアーを設置し、1999年に第1回をミャンマーで開催して以来、約20回を数えている。将来を担う若い歯科保険・医療人の人材育成への貢献を通じて国際相互理解を促進する事業であり、歯科分野における国際保健の人材ネットワークを作り上げることが大きいと考えられる。

コロナ禍ではZoom等での交流に制限されることもあったが、現在は活発な活動に戻りつつある。今後、このような継続的な歯学部生を対象とした活動実績を積むことで、国際感覚を養い、将来的に幅広い社会視野を持つ医療人の確保が望めると考えている。

略歴

2011年 東京歯科大学 卒業
2013年 慶應義塾大学病院臨床研修歯科医 修了
2013年 慶應義塾大学大学院 入学
2017年 慶應義塾大学大学院 修了
2017年 慶應義塾大学医学部
歯科・口腔外科学教室 助教
2019年 Harvard University 博士研究員
2021年 東京歯科大学生理学講座 助教
2024年 東京歯科大学生理学講座 講師

活動歴等

2008年 日中歯科学士交流事業 参加
2022年 Elective Study Program 引率
2023年 Elective Study Program 引率



③ シンポジウム 2 (学生発表)

日 時：2024 年 7 月 6 日 (土) 13:00 - 14:15

主 催：日本歯科保健医療国際協力学会

テーマ：「円安時代における学生の海外活動」

座 長：有川 量崇 (日本大学松戸歯学部衛生学講座・教授)

演 者：コロナ後の日本大学松戸歯学部国際保健部の活動

高森 麗加、袴田 杜 (日本大学松戸歯学部国際保健部)

アジア太平洋歯科学学生会議 (APDSA) の活動について

野田江梨子、小林佳弥乃、石田カノン (アジア太平洋歯科学学生会議・APDSA)

日本歯科学学生会議 (JDSA) の活動と今後の展望

加藤優綺、権藤絢子 (日本歯科学学生会議・JDSA)

アジア太平洋歯科学学生会議 (APDSA) の活動について

野田 江梨子^{1),2)}、小林 佳弥乃^{1),3)}、石田 カノン^{1),4)}

1) アジア太平洋歯科学学生会議 (APDSA)

2) 日本歯科大学生命歯学部 5 年

3) 日本歯科大学生命歯学部 2 年

4) 鶴見大学歯学部 3 年

アジア太平洋歯科学学生会議 (APDSA) は 1968 年に日本の歯科学生が中心となって設立された。以降、5 回の非開催年 (1976 年, 1978 年, 1979 年, 1980 年, 2020 年) を除いて 51 回開催されている。このうち、日本開催は 5 回 (1968 年, 1969 年, 1992 年, 2001 年, 2010 年) で、近年では参加が中心となっている。どの国も参加 OB は各国で中心的な役割を果たしており、日本においても同様である。本発表ではコロナ後の APDSA について報告する。

概要

- ・設 立：1968 年
- ・会員数：10,000 名 (18 カ国)
- ・主活動：年会、ウェビナー、臨床セミナー

2024 年度の大会概要

- ・日 時：2024 年 8 月 1 日～8 月 5 日
- ・場 所：バンコク
- ・参加者：14 名 (5 校)
- ・内 容：論文コンテスト、学術コンペ

コロナ後の日本大学松戸歯学部国際保健部の活動

高森 麗加、袴田 杜
日本大学松戸歯学部国際保健部
日本大学松戸歯学部・3年

本発表では「円安時代における学生の海外活動」というテーマから2つの分野を設定した。

一つ目は私たち学生が「留学や研究活動」において肌身で感じた“円安時代”について実体験を述べる。

二つ目は「現地でのボランティア活動」を行うときに生じる問題について考察を行い、問題に対する解決策を考えた。

私たちはコロナ禍を経て変化した社会の中で、これまでの経験を活かしつつ、あらゆる問題に直面しても解決する能力を身に付け、国際保健部が国際的で実践的な経験を積む場となるように準備を整えている。

概要

設立：2000年

部長：小林清吾（初代）、鈴木久仁博（二代目）、
竹内麗理（三代目）

学生数：26名

主活動：APDSA（アジア太平洋歯科学学生会議）参加
OISDE（歯科医療国際教育支援機構）
カンボジア等スタディツアー参加
SPMT（南太平洋医療隊）
トンガスタディツアー参加

活動歴

2000年 活動参加（タイ、カンボジア）

2001年 活動参加（タイ、カンボジア）

2002年 活動参加（タイ、カンボジア、トンガ）

2003年 活動参加（トンガ）

2004年 活動参加（ラオス、カンボジア、トンガ）

2005年 活動参加（トンガ、東ティモール）

2006-2009, 2016, 2017年 活動参加（トンガ）

2017年 JAICOH 学術集会発表

2019年 活動参加（ラオス、カンボジア、トンガ）

2020年 JAICOH 学術集会発表

他 APDSA に毎年参加

日本歯科学生会議（JDSA）の活動と今後の展望

加藤 優綺^{1), 2)}、権藤 絢子^{1), 3)}

1) 日本歯科学生会議（JDSA）

2) 神奈川歯科大学 4年

3) 東京歯科大学 3年

JDSA は世界歯科学生連盟 IADS に日本の歯科学生団体として加盟している。国際部代表と delegates はアジア地域の加盟国との会議に 2-3 ヶ月に 1 回参加。希望者は 9 月の Annual Congress、2 月の Mid Year Meeting に参加。学生のうちから世界の歯科について知見を深めたり、熱意ある他国の歯科学生と触れ合うことで、国内外問わず世界的に活躍できる歯科医師を目指している。

また、国内活動として、日本国内の学生達(小学生、中学生、高校生)に口腔ケアの大切さと歯科医師という職業のすばらしさを伝える事業を行っている。歯科医師という職業を伝えることで、学生達の進路の幅を広げることができると考えている。

・設立：2018 年

・会員数：274 名（27 校）

・主活動：2024 年度

4 月：日本臨床歯周病学会 関東支部 学生プログラム共催、JDSA 活動紹介会開催、トルコの学生と会議

5 月：第 1 回英語話そう会開催、デンツプライシロナ ショールーム見学

6 月：Air way summit 希望者参加・アジア地域の歯科学生団体との会議参加

7 月：JAICOH 学会にて活動報告、第 2 回英語話そう会開催

8 月：日本臨床歯周病学会 関東支部 学生プログラム共催、学校訪問

11 月：日本臨床歯周病学会 関東支部 学生プログラム共催、小児歯科講演会、東歯祭にブースを出展

1 月：学校訪問

3 月：学校訪問、希望者のみ海外の歯科学生学会 Mid Year Meeting に参加

④ シンポジウム3（千葉大会特別企画）

日 時：2024年7月6日（土）14:30 - 15:45

主 催： 大会長

テーマ： 「千葉から世界へ。歯科界のグローバル化の光と影。」

座 長： 瀧 佑介（千葉うまいもん大学・副学長）

演 者： 千葉の歯科民間企業による海外展開

首藤 謙介（デンタルサポート株式会社国際事業部 副部長）

千葉の事例でインバウンド医療の課題を考える

杉本 智朗（SK ビザ行政書士法人・所長）

趣旨説明

瀧 佑介

千葉うまいもん大学・副学長

千葉には高度な技術で世界で勝負する歯科分野の事業所が多く存在し、本学会でその経験を共有したい。また、グローバル化における国内の諸問題について事例を報告していただき、タブーなく議論していきたいと考えている。

略歴

柔道5段

1999年 東京歯科大学 入学

1999年 国立大学法人 電気通信大学 卒業

2015年 千葉うまいもん大学 創設

千葉の事例でインバウンド医療の課題を考える

杉本 智朗

SK ビザ行政書士法人・所長

観光立国政策、医療ツーリズム政策により、短期滞在の外国人が増加し一定の成果は出ていると考えられる。しかしながら、観光面ではオーバーツーリズムの課題、医療ツーリズムでは外国人による不正な医療機関の受診を防ぐ課題がある。どのような、不正な受診があり得るのか、不正な受診により自由診療が侵害され、ひいては医療ツーリズム制度そのものが崩壊してしまうリスクを考える。短期滞在者（観光ビザ）の外国人の不正受診（保険証、在留カードの貸し借り、偽造在留カード、偽造運転免許証等の提示）をどのように防止するか、方法を示す。「日本の常識は世界の非常識」の認識を持つことの重要性を問いつける。

略歴

2001年 四国学院大学卒業社会福祉学科 卒業

主な活動

2005年 京都 西村菰軒（窯元）

・千葉青年会議所

2013年 杉本インターナショナル行政書士事務所

・千葉商工会議所青年部

2019年 SK ビザ行政書士法人

・千葉ネオライオンズ



海外における歯科医療について

首藤 謙介

デンタルサポート株式会社国際事業部・副部長

本講演では、弊社が進出している国々を例に海外の歯科医療についてお話しさせていただきます。弊社の医療施設は、アラブ首長国連邦ドバイのメディカル&デンタルクリニックと、ミャンマーの歯科技工所です。この2つの医療施設を例に取り上げ、進出した経緯と、異なる文化や医療環境についてお話しいたします。

経歴

2008年 デンタルサポート株式会社 入社
2012年 デンタルサポート株式会社 技工課
デンタルスタジオ所長
2014年 デンタルサポート株式会社
技工担当部長（部昇格）
2015年 DS SAKURA DENTAL SERVICES Co., Ltd.
（ミャンマー）代表取締役社長（兼務）
2016年 DS デンタルスタジオ株式会社
代表取締役社長就任（子会社化）
2018年 デンタルサポート株式会社
国際事業部 担当部長（本社転籍）
2023年 SAKURA Medical and Dental Clinic
FZ-LLC（ドバイ）代表取締役社長就任
2024年 デンタルサポート株式会社 国際事業部
副部長現在に至る

【主な海外活動歴】

2012年 アラブ首長国連邦（ドバイ）
SAKURA Medical & Dental Clinic 設立
2014年 ミャンマーJICAのODA事業実施
2015年 ミャンマー DS SAKURA DENTAL SERVICES
（歯科技工所）を設立
2023年 アメリカ Glidewell社とAI CAD
「FinalTouch™」独占販売店契約を締結
（子会社DS デンタルスタジオ）



⑤ シンポジウム 4

日 時：2024年7月7日（土）9:00 - 10:15

主 催：日本歯科保健医療国際協力学会

テーマ：「国際保健、卒後それぞれの道：歯科の国際保健のキャリアパス」

座 長：大会長

演 者：医師として歯科と医科の架け橋となる

田井 誠悟（新百合ヶ丘総合病院、東京歯科大学国際医療研究会 OB）

歯科医院をグループ展開。歯科医師の夢を叶える。

熊木 淳雄（医療法人社団 ALBA・理事長、神奈川歯科大学国際保健部 OB）

フリーランス歯科医師という生き方

石井 啓裕（医療法人社団佑健会、アジア太平洋歯科学学生会議（APDSA）OB、
東京歯科大学国際医療研究会 OB）

グローバル活動こそ女子の本懐。これが私の生きる道。

山田（古川） 匡恵（国立長寿医療研究センター、東京歯科大学国際医療研究会 OB）

歯学部卒業後に医学部に入り直した変わり者の一例

田井 誠悟

新百合ヶ丘総合病院

東京歯科大学国際医療研究会 OB

【背景】歯学部卒業後、医学部に入り直す者は極めて稀である。近年増加傾向であるが、その動機の多くは不明とされている。また、医学部卒業後の進路についても多岐にわたる。

【臨床経過】30代男性。歯学部卒業後に歯科医師として勤務した後に医学部に編入した。医学部卒業後、キャリアに悩みながらも現在救急医として神奈川県内の病院で勤務している。

【結論】進路を振りかえり自分なりの考察を加え発表する。

略歴：

2008年 東京歯科大学歯学部入学

2022年 新百合ヶ丘総合病院救急科勤務

2014年 東京歯科大学歯学部卒業

2014年 東京歯科大学入職

2016年 東京歯科大学退職

2016年 岩手医科大学医学部医学科3年次編入学

2020年 岩手医科大学医学部医学科卒業

2020年 新百合ヶ丘総合病院初期臨床研修開始

2022年 新百合ヶ丘総合病院初期臨床研修終了



歯科医院をグループ展開。歯科医師の夢を叶える。

熊木 淳雄

医療法人社団 ALBA・理事長
神奈川歯科大学国際保健部 OB

略歴

2007年 神奈川歯科大学卒業

2011年 ALBA 歯科開設

2020年 米国グアム大学 生医科学部 特任教授

2020年 米国インディアナ大学歯学部 客員教授

2020年 神奈川歯科大学特任教授

グループ医院は 20 医院

従業員 200 名

フリーランス歯科医師という生き方

石井 啓裕

医療法人社団佑健会
アジア太平洋歯科学会（APDSA）OB

略歴

2004年 東京歯科大学卒業

2008年 東京歯科大学修了

活動歴等

グローバル活動こそ女子の本懐。これが私の生きる道。

山田（古川） 匡恵
国立長寿医療研究センター
東京歯科大学国際医療研究会 OB

私は学生時代よりインドネシアの歯科保健に興味があり、インドネシアバリ島内の水道水および井戸水中のフッ素濃度の検討を行い、東京歯科大学の眞木教授に師事し卒業論文としてまとめました。博士課程修了後は様々な人との出会いを通してインドネシア、マレーシア、バングラデシュ、ネパール、ドイツなどの学会や現地の歯科大学、歯科医院を訪問してきました。歯科という狭い世界で、自分の色を濃く自由に出せることができるのはグローバル活動であり、言語の壁を乗り越えてなお、人生を謳歌できるのは、グローバル活動ではないかと考えています。結婚・出産などのライフイベントも経験し、なお、私の人生を照らしてくれるのは、グローバル活動そのものであると感じています。多様化となった今なお、多くの女性のロールモデルとして、私のキャリアをお話しできれば幸いです。

略歴

2001年 東京歯科大学卒業
2005年 広島大学大学院歯科補綴学 修了
2005年-2006年
マハサラスワティ大学（インドネシア）
Visiting assistant professor
2006年-2011年 昭和大学美容歯科学部門 助教
2006年-2007年
ケルン大学歯科材料学
Postdoctoral Fellow
2018年-2024年
国立長寿医療研究センター 研究員
2021年-2023年
日本学術振興会 特別研究員 RPD
2024年-現在
国立長寿医療研究センター 研究員
2024年-現在 大垣女子短期大学 非常勤講師
2024年- NIH 国立小児保健・人間発達研究所
頭蓋顔面遺伝性疾患部門 研究員

受賞歴

2023年 優秀演題賞 第23回抗加齢医学会
2020年 優秀演題賞 日本抗加齢医学会
2012年 最優秀ポスター賞
第12回アジア歯科審美学会
2010年 Special award as speaker
第2回南アジア歯科審美学会
2010年 最優秀ポスター賞
第11回アジア歯科審美学会

⑥ JICA・協力隊企画

日 時：2024年7月6日（土）14:15 - 15:00

主 催：日本歯科保健医療国際協力学会歯科医学系海外協力隊促進協議会部門

テーマ：「JICA 海外協力隊における歯科保健の位置付け」

座 長：原田 祥二（原田歯科・院長）

演 者：大石 精一（一般社団法人協力隊を育てる会・事務局長）

藤沢 礼香（一般社団法人協力隊を育てる会）

「JICA 海外協力隊」の活動と「育てる会」の役割について

大石 精一¹⁾、藤沢 礼香²⁾
一般社団法人協力隊を育てる会・事務局長¹⁾、事務部²⁾

【JICA 海外協力隊】

青年海外協力隊（現 JICA 海外協力隊）は 1965 年に発足、間もなく設立 60 周年を迎える。原則として 2 年間、現地の人と共に暮らしながら課題解決に取り組む「国民参加型の ODA」事業は他に例がなく、形を変えながらも現在も継続しており、累計で 56,612 名の隊員が参加、現在も 74 カ国に 1,462 人の隊員が活動している（5 月 31 日現在）。JICA 海外協力隊：①青年海外協力隊（20～45 歳）、②海外協力隊（46～69 歳）③日系社会青年海外協力隊（20～45 歳、日系移住地で活動）、④日系社会海外協力隊（46～69 歳、同）の総称。

【育てる会の発足】

協力隊から遅れること 11 年後、1976 年に「育てる会」が発足、「安心して協力隊に参加できる」社会環境の整備（ボランティア休暇制度の普及、経験者の積極的な採用）を進める。初代会長：茅誠司氏（東大総長）。第 2 代：中根千枝（文化人類学者）、第 3 代：三浦朱門（作家）、第 4 代：足立房夫（日産労連）、第 5 代：山本保博（医師）、第 6 代：明石要一（教育者）。民間の立場から協力隊経験の価値を認め、「多様な価値観を認める平和で豊かな社会を創る」活動を展開している。約 50 年の中で、北海道～沖縄県まで全都道府県に育てる会を設立、地域実情に合わせた支援を行う。

【歯に係る隊員】

歯科衛生士、歯科技工士、歯科医師等、これまでに 100 名以上の隊員が活動している。こうした専門職とは別に「歯磨きの普及」等に携わる隊員（コミュニティ開発普及員、青少年活動等）も少なくない。治療へのアクセス、金銭的な問題か治療を受けられない方も少なくないため、現場の最前線で活動する隊員は、予防・啓発を重視し、人材育成の観点から貢献している。

習慣を変える⇒子どもの教育

【新しい協力隊と応援体制の整備】

これまで協力隊（ODA 事業）＝開発途上国の支援という一方的な関係に思われてきたが、昨年 8 年ぶりに ODA 大綱が改定により、「協力隊経験者の知見を我が国の課題解決につなげる」という目的が加わった。日本にはなかった（忘れられた）視点や価値観を得て帰国した隊員たちが社会を変えつつあり（外国人材の橋渡し、地域再生、積極的な平和構築）、一般市民も協力隊事業に賛同、参加できる仕組みも整備しつつある（JICA 海外協力隊応援基金）。

⑦ 一般口演

次世代の自動麻酔装置

星島 宏

東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野

目的：近年、人工知能は様々な分野で応用されており、医療の分野も例外ではない。我々の研究室でも、人工知能を用い新しい医療の可能性を追求している。本研究では、開発途上である、人工知能を備えた次世代の自動麻酔装置の研究報告及び、国際協力への発展方法について考察する。

方法：本研究は東北大学歯学部倫理委員会の承認を得て行っている。対象は、静脈内鎮静下で処置を行った、歯科・口腔外科の成人患者である。データは、血圧、脈拍、呼吸数、BIS値を収取し、人工知能の深層学習を用いて麻酔薬（プロポフォール）の投薬推定量を算出した。また、麻酔薬を自動投薬するためのソフトウェアを別途開発した。

結果：人工知能により30名の患者のデータを事前学習し、プロポフォールの投薬推定量を算出することに成功した。また、自動投薬のためのソフトウェアの開発にも成功した。

結論：今後、自動麻酔装置の臨床応用に向け不具合などの修正を行っていく。最終的には、ウェブ上での接続を行い、日本国内のみならず世界のさまざまな地域で、次世代の麻酔装置が遠隔で使用可能になることを目的としている。

ベトナム社会主義共和国ベンチュ省での口唇口蓋裂に対する医療支援
—言語聴覚士の活動報告—

牧 直美¹⁾、柳澤繁孝²⁾

1) 社会医療法人敬和会大分岡病院 リハビリテーション部

2) 社会医療法人敬和会大分岡病院 口腔顎顔面センター

【緒言】

特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会は、1992年よりベトナム社会主義共和国において口唇口蓋裂に対する無償手術を実施している。今回、ベンチュ省グエンディンチュウ病院で2024年3月23日～31日に行われた医療支援に言語聴覚士として参加した。同院には、言語聴覚士は在籍せず、言語治療室は設備されていない。現地での活動内容と今後の課題について報告する。

【活動内容】

1. 鼻咽腔閉鎖機能の評価

対象：これまでの同協会の医療支援で口蓋形成術を受けた患者26名（4～25歳、中央値9歳、男女比19：7、片側性唇顎口蓋裂15名、両側性唇顎口蓋裂5名、口蓋裂単独6名）。方法：日本コミュニケーション障害学会口蓋裂言語検査に準じ、通訳を介して音声言語の評価、ブローイング検査、口腔内視診を行い、鼻咽腔閉鎖機能（以下VPF）の程度を判定した。さらに、VPFに関わる、吹く・吸う動作や発話での困りごとがないかを聴取した。結果：VPFの判定は、良好8名、ごく軽度不全4名、軽度不全6名、不全2名、判定保留が6名であった。声門破裂音が2名から聴取され、4名の家族から発音が不明瞭でことばが伝わりにくいとの訴えがあり、機能改善のために家庭で行うトレーニング方法を指導した。

2. 口蓋形成術後のホームトレーニングの指導

対象：今回、口蓋再形成術を受けた2名と口蓋形成術初回手術を受けた4名の計6名。方法：手術当日に患者家族に対して、家庭でのトレーニング方法を指導した。在日ベトナム人留学生の協力を得て自作したベトナム語のリーフレットを提示しながら実施した。内容：VPFについて説明し、機能獲得のための家族によるトレーニング方法を指導した。さらに、正しい構音動作や嚥下動作獲得を目的とした舌の運動機能を高めるトレーニング方法も指導した。

【考察】

VPFが軽度不全または不全で、機能改善のための訓練や外科的・補綴的治療が必要と判断されたのは、26名中8名（30.7%）であった。これらの患者家族には、機能不全に対する認識があり困難も感じていたが、相談できる専門家がない状況にあった。言語聴覚士による説明や家庭で行うトレーニングの指導に対して、家族の受け入れは良好であったが、今回は系統的な訓練のごく初期のものを行ったにすぎない。VPFに関わる生活動作や構音の改善の為には、段階的で長期的なアプローチが必要と考える。

NGO が中心となり設立したベトナム研究所について第1報
—設立の経緯と初年度活動報告につきまして—

刑部理恵¹⁾³⁾、新美照幸¹⁾²⁾³⁾、井村英人¹⁾²⁾³⁾、清水政明⁴⁾、速水佳世¹⁾³⁾、紅 順子¹⁾³⁾、原田富美子³⁾、
枝 努³⁾、嶋吉敏文³⁾、高田典和⁵⁾、吉田朗子⁵⁾、Ta Thanh Van⁶⁾、Nguyen Huu Tu⁶⁾、Tong Minh Son⁶⁾、
Nguyen Minh Duc⁶⁾、Nguyen Thu Tra⁶⁾、Tran Phuorg Thao¹⁾⁶⁾、Le Kha Anh¹⁾⁶⁾、Nguyen Minh Nghia³⁾、
Nguyen Hoai Nam³⁾、太田剛仁⁷⁾、杉原功剛⁷⁾、澤芳彦⁷⁾、大原康之³⁾⁷⁾、夏目長門¹⁾²⁾³⁾⁵⁾

1) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室

2) 愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センター
大原康之記念寄附研究部門 ベトナム研究所

3) 特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会

4) 大阪大学外国語学部ベトナム語専攻

5) 特定非営利活動法人日本医学歯学情報機構

6) ハノイ医科大学

7) 株式会社榎屋・榎屋ティスコ株式会社

日本口唇口蓋裂協会は、1992年よりベトナムへの医療協力を開始して、日本医学歯学情報機構とも連携し多くのプロジェクトを実施している。また2008年には、これまでの活動を通じて中部地方で初めてのベトナム名誉領事館の誘致に成功するとともに、2016年には友好親善協会も設立して事務局を担当している。

この度、更なる両国の交流を推進するために、日本口唇口蓋裂協会相談役で愛知名古屋ベトナム友好親善協会理事を務める株式会社榎屋大原康之取締役会長のご寄付により、「大原康之記念寄附研究部門 ベトナム研究所」を愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センターにベトナムについて研究をするための寄付講座を設立したので設立までの経緯と初年度の活動内容について報告する。

が国の国力が低下する中で、産学官 NGO が連携した重層的な交流のモデルとして多くの NGO や大学や企業の参考になれば幸いである。

5. 市民啓発イベント

日 時：2024年7月5日（金）10:00 - 11:00

場 所：アストロベースキャンプ

内 容：歯磨き指導とグローバルヘルスの講習

講 師：眞木 吉信（東京歯科大学・名誉教授）

阿部 智（大会長）

6. 開会式、閉会式、懇親会

・開会式

1. 開 会

2. 主催者挨拶 夏目 長門（日本歯科保健医療国際協力学会・理事長）

3. 大会長挨拶 阿部 智（大会長）

4. 閉 会

・懇親会

1. 開 会

2. 歓迎の辞 阿部 智（大会長）

3. 祝 辞 齊藤 浩司（千葉市歯科医師会・会長）

4. 乾 杯 石川 弘（千葉市議会・議長）

5. 歓 談

6. 閉 会

・閉会式

1. 開 会

2. 大会長挨拶 阿部 智（大会長）

3. 主催者挨拶 夏目 長門（日本歯科保健医療国際協力学会・理事長）

4. シーズプロジェクト受賞発表

5. 学生学会貢献感謝賞発表

6. 次期大会長挨拶 西條 英人（日本歯科保健医療国際協力学会・副理事長）

7. 閉 会

=====

日本歯科保健医療国際協力学会（JAICOH）
第 34 回総会・学術集会 抄録集

2024 年 7 月 発行

編 集 日本歯科保健医療国際協力学会第 34 回総会・学術集会準備委員会
印刷・製本

=====